

個人質問 34人の議員が行った質問の中から、いくつかを取り上げて要旨を掲載

医療・福祉

(仮称)保健・医療・福祉連携 ネットワークセンター

問 (仮称)岡山総合医療センター構想における、保健・医療・福祉連携機能は。

答 予防、診療から介護まで切れ目のないサービスが受けられる仕組みづくりを推進するものである。関係機関・団体等との間で、お互いの顔が見える情報交換を行い、連携してサービス支援をする仕組みづくりに取り組みたい。

医療センターの中に、予防・診療から介護までの情報提供と相談機能を持つ(仮称)保健・医療・福祉連携ネットワークセンターを設置することにより、市民への安心のサービス提供の実現を図りたい。

岡山型ERを支える

病院機能とスタッフ

問 2015年に北長瀬で開院予定の(仮称)岡山総合医療センターのERを支える病院機能はどのようになるのか。

答 ERを支える病院機能については、現在のICU(集中治療室)にHCU(高度治療室)、SCU(脳卒中集中治療室)を加え、集中治療部門を強化する。

また、診療科は18診療科を基本とし、ERで専門治療が必要と判断された場合は、各科で迅速に対応するなど、病院全体でERを支える院内体制を構築していく。

高齢者見守り体制の整備

問 高齢者の生活支援サービスの現状と対策は。

答 地域社会とのつながりの強化に向け、地域包括支援センターによる安全・安心ネットワーク等との連携、生活・介護サポーター養成事業、高齢者の安全・安心につながる活動などを積極的に行う地域保健福祉モデル事業などに取り組んでいる。

所在不明高齢者等の問題に対応するため、国の緊急雇用創出事業を活用して、地域包括支援センターの職員を増員し、今後、在宅高齢者の安否確認や健康チェックを含めた実態把握など、センターの機能を強化する。

また、権利擁護への取り組みも充実させるなど、一人暮らしの高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを一層推進したい。

暮らし・安全安心



消費生活センターの充実

問 ①最近の相談内容で増加していること、特徴的なことは。

②消費者ホットラインの周知は。

③一人暮らし高齢者や高齢者世帯の方をどうやって相談につなげるのか。

④複雑巧妙化する消費者被害にどのように対応するのか。

答 ①携帯電話やインターネット関連のトラブル、電話勧誘による未公開株、外国通貨などの

詐欺的取引の相談など、複雑で被害金額が高額なものも増えている。

②国が開設当初に新聞報道したり、ホームページ等で広報しているが、周知不足の面もある

ので、市も広報紙等を活用して周知したい。

③65歳になる方への啓発リーフレットの送付、民生委員への啓発、高齢者への出前講座・広報紙での啓発を通じて、センターの周知に努める。

④地域とつながりのある関連団体に対して、センターの窓口や出前講座をPRするとともに、関係部署にも情報発信し、連絡を取り合って相談につながるよう努めたい。